

表1 10月26日時点の被災状況

死者	2,105名
行方不明者	1,309名
重傷者	4,438名
避難者	206,494名
全半壊家屋	68,451戸



液状化による壊滅的な被害を受けたパル市西部のパラロア地区

インドネシア 中部スラウエシ 地震・津波被災者への緊急支援を開始

2018年9月28日、インドネシアのスラウエシ島中部でマグニチュード7・5の地震と津波が発生しました。その一報に触れた時、2004年のスマトラ島沖地震と2011年の東日本大震災の時の光景が想起されました。私自身、数年前にスラウエシ島を訪れたことがあり、美しい海岸風景と、明るくとても親切にもてなしてくれた島人、美味しい料理に感動したことが思い出され、大変に心配になりました。情報を追いましたがなかなか被害状況が分かりません。10月26日の時点で表1の被害状態が公表されていますが、詳細はまだ不明です。地震によって生じた大規模な液状化によって泥土が集落や住宅地をまるごと覆ってしまい、掘り起こすことが不可能とされています。

被災地域は小規模な農村と漁村が多く、道路が寸断されているため未だにアクセスできない地区もあることです。中部スラウエシ州の州都パル市には9か所の緊急避難所におよそ1万6500人が避難していますが、避難所と言っても囲いがあるだけで、トイレもまだない状態と伝えられました。10月から雨季が始まって二次被害も心配ですし、親たちと離れ離れになって余震も続き震えているという子どもたちのことも心配です。

そこでパルシックは、(1)食糧や衛生用品、タオル、ブランケットなどを配布する、(2)テントを張って子ども達が安心してくつろげる場所を提供する、という活動を開始することにしました。以前にスリランカの漁村で内戦復興事業を担ってくれた飯田彰さん、東ティモールでの当団体スタッフの友人の松村多悠子さん、ジョクジャカルタで暮らしていたパンジーさんの3人が現地に駆けつけてくれることになり、10月26日に現地へ到着して事業を開始しました。事業の詳細は随時ホームページでご報告しますので、ぜひそちらもご覧ください。

(井上 禮子)

目次	インドネシア 中部スラウエシ 地震・津波被災者への緊急支援を開始…… 1
	パレスチナ ガザ 女性グループが畜産活動開始／西岸 広がる取り組み／事業担当者を日本に迎えて…… 2
	シリア情勢 内戦は終息へ、復興支援を開始…… 3
	愛媛 物資配布と生活再建に取り組む…… 3
	パルシックの民際協力とフェアトレード…… 4-5
	フェアトレード よりよい品質のコーヒーを目指して(東ティモール)／

	フェアトレードイベント開催しました(東京) …… 6
	女性グループ自立化にむけて(東ティモール)／インターン報告 紅茶生産者との奮闘の毎日(スリランカ) …… 7
	パルシックのフェアトレード商品／ちょっと寄り道♪フェアトレードなお店…… 7
	パルシックからのお知らせ 葛飾のみんなの居場所&子ども食堂みんなふえ／イベント報告／編集後記／ご支援のお願い…… 8

■ガザ 女性グループが畜産活動開始

3月30日の「土地の日」からガザ地区で始まった、難民の帰還権を求める市民の抗議デモ「帰還の大行進」は、メディアでの報道が下火になってきた現在もお、多数の死傷者を出しながら続いています。10月26日には、イスラエル軍による大規模空爆が行われ、5人が死亡、200人以上が負傷しました。

一方、パレスチナの内部でも、6月頃より、統一政府への権限移譲をめぐり、自治政府とハマスの間の対立が顕在化してきました。アッバス大統領は、ガザ地区に対する様々な経済制裁を行うと言及しており、状況は張りつめています。

ラファ県東部で始まった女性グループによる畜産事業では、3月、事業対象者の選定を開始しましたが、1000世帯を越す事業参加の申請が殺到。1世帯ずつ訪問精査していたさなかの5月、治安が急激に悪化し、一時、イスラエルとの停戦ラインに近い事業対象の村の訪問を中断する事態にもなりました。8月、ようやく畜産に参加する20の女性協働グループの選定を終え、羊小屋の建設と羊の配布を開始しました。グループは6人1組から成り、メンバーが羊の世話や小屋の掃除、搾乳などをシフト制でこなしています。

ヤスミンさんがリーダーを務めるグ



ヤスミン・アブー・サイエドさん (左)

ループではすでに子羊が6頭生まれました。事業に参加する女性たちは皆、世帯の稼ぎ手。ヤスミンさん自身も、腎臓の病気で働くことのできない夫を支え、6人の子どもたちを養う一家の大黒柱です。

ヤスミンさんたちは、さっそく母羊から集めた生乳で手作りの伝統的なチーズやヨーグルト作りも始めました。「おもしろくできた」と言いながらも、ヤスミンさんの探求心はとどまることを知りません。「もっとプロフェッショナルな乳製品作りを学ぶチャンスがほしい。ベストな品質のチーズを作って、しっかりと市場に売り込めるようにしたい」と話し、ヤスミンさんは乳製品の開発に情熱を注いでいます。

(盛田)

(この事業は日本NGO連携無償資金協力の助成と皆さまからのご寄付で実施しています。)

■西岸 広がる取り組み

3年目の西岸での循環型農業事業のテーマは循環型社会づくりや環境教育の取り組みの輪を拡げていくことです。事業地ジャマインの隣村、ゼイタの学校2校に環境クラブを立ち上げ、2村共同のワークショップを開催しました。2年間堆肥づくりを学んだ先輩メンバーが、新しいメンバー、家族、近隣家庭に堆肥づくりの知識や技術を伝え、草の根の活動で少しずつ地域全体にアイデアを共有していきけるよう取り組んでいます。

西岸の耕作放棄地への植樹事業も3年目を迎えました。占領下の土地の接収や水の制限、また温暖化の問題に奮闘するコミュニティと共に、合計800本の木を植えます。

(関口)

(この事業は緑の募金、地球環境基金の助成と皆さまからのご寄付で実施しています。)



堆肥作りを学ぶ環境クラブの学生たち

■事業担当者を日本に迎えて

9月、西岸事業の担当者サーデクを日本に招へいし、三重県や埼玉県小川町で有機堆肥づくりや循環型農業について共に学び、現状課題への新しいアプローチの可能性を模索しました。日本での研修を終えたサーデクは、「日本で原料により用途の違う堆肥が作れることを学んだので、その知識を生かして、様々な堆肥が出回りつつある西岸地域で、より品質のいい堆肥を作りたい」と、意欲をもって帰国しました。

また、サーデクによる報告会では、1967年の占領前後で西岸の人びとの生活や農業がどのように変化してきたかや、今後のパレスチナの展望について話しました。参加者からは農産物の品質や海外市場開拓などについて多くの質問が寄せられ、あまり知られていないパレスチナの農業への関心の高さが伺えました。

(関口)

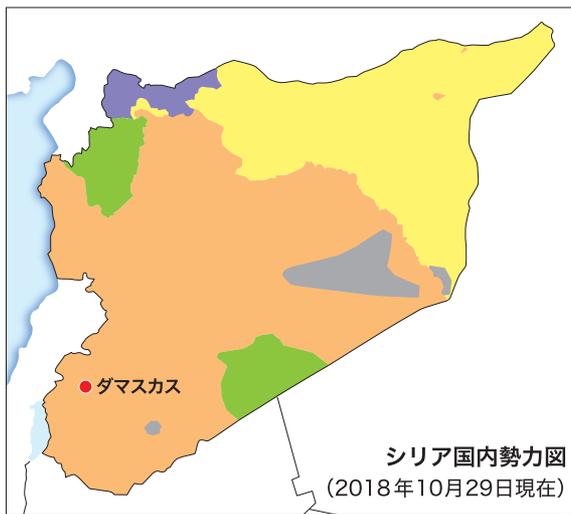


三重県で堆肥作りの研修を受けるサーデク(左)

(この事業は地球環境基金の助成と皆さまからのご寄付で実施しています。)

シリア情勢 内戦は終息へ、復興支援を開始

2011年に始まったシリア国内の紛争は、既に7年が経ち約560万人が国外に避難し、約620万人（現在の国内人口の約50%）が国内避難民となっています。内戦は終息に近づき、現在の主な戦闘地域はシリア北西部と南東部となりましたが、農地が影響を受けたことに加え、国境が紛争以前のように開かれておらず輸入が厳しく制限されていることから、食糧が不足しています。パルシックでは、2018年の6月より、現地の協力団体とシリア国内で食糧バスケットの配布を開始しました。1か月分の食糧を約800世帯（約4500人）に毎月配布しています。今後、内戦により大きな影響を受けたシリア人の生活状況を調



シリア国内勢力図
(2018年10月29日現在)

シリア政府
クルド民族主義勢力
反体制派
イスラム国
トルコ

出典：<https://syria.liveuamap.com/en>



ムナ家の子どもたち

ムナさん
夫を襲撃で亡くし、家を破壊されてしまったため、戦争から逃れるために、故郷を離れ、7人の子どもを連れて住居を転々としてきました。収入が無く家を借りられず、今は他の家族と一緒に光の差さない納屋で暮らしています。教育や電気だけでなく、水や食糧すら子どもたちに十分に与えられず困っていました。食糧バスケットにより、多くの食糧を補うことができ、子どもたちに食べさせることができました。
(パルシックでは寡婦世帯に優先的に食糧バスケットを配布しています。)

人びとの声

べ、コミュニティに寄り添って適した支援を行っていきたくと思っています。
(大野木)
(この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからの寄付で実施しています。)

愛媛 物資配布と生活再建に取り組み

2018年7月の西日本豪雨で土砂崩れと川の氾濫が起こった愛媛県では、住宅だけでも、全壊が632棟、半壊が3212棟、床上あるいは床下浸水が3052棟と、大きな被害を受けました。パルシックは社会福祉協議会や現地NPOと協力して、支援物資にアクセスしづらい独居高齢者宅を訪問し、飲料水やお風呂代わりに体を拭くシート、高齢者用尿漏れシートなどを配布しました。豪雨直後から断水となった地域がいくつかあり、水不足に対応するこのような物資配布は大変喜ばれました。同じ断水に苦しんでいる地域によって受けている支援の程度は異なり、ある地区では、住民の方が「この地域は支援されないか、支援があったとしても順番は最後だと思っていた。私たちのことを考えてくれる人がいて嬉しい」と話されました。



物資の調達や配布を手助けしています。甚大な浸水被害を受けた西予市では、被災した農地を地域復興にどう生かせるかについての調査を始めました。他にも様々な現地団体と協力しながら、生活再建に向けて活動しています。
(シーバース 玲名)
(この事業はジャパン・プラットフォームの助成と、皆さまからの寄付で実施しています。)
上…断水の地区では生活用水が所々に置かれていた
下…吉田中学校に提供したスポーツ用品と部活顧問の先生たち

校舎が浸水した宇和島市立吉田中学校へは、流されてしまったスポーツ用品や技術の授業で使用する工具を提供し、パルシックと繋がりのある千葉県立成田国際高校の有志の生徒さんからもソフトテニスボールの寄付をいただきました。吉田中学校は、ソフトテニスボールの箱を展示し、多くの人に支援してもらったことを今後も生徒たちに伝えていくそうです。
9月中旬に断水は解消したものの、家の泥出しが終わらなったり、仮設住宅に移ったりして、今までは異なる生活を強いられている人もいます。もともと大きな地元のNPO団体が無かった宇和島市では、豪雨直後に発足したNPO「うわじまグラナマ」が、倉庫を利用して物資支援を行っており、パルシックは

パルシックの民際協力とフェアトレード

パルシックの民際協力活動は、外国の占領や侵略、紛争、自然災害によって自立的な発展を阻まれた人びとが、暮らしを取り戻すことへの支援を重視しています。活動を通じてできあがった産品は、フェアトレード商品として販売し、生産者の暮らしを守ります。

トルコ：シリア難民支援

2017年6月から開始した、シリア難民の子どもたちへ教育や心理社会的支援を行う場、“チャイルドフレンドリースペース”でのレクリエーションを通して、子どもたちは共同作業に必要なコミュニケーションや、相手を思いやる行動を学んでいます。



マレーシア：教育事業

8月から9月にかけて、マレーシアのペナンで大学生と高校生のグループを2組、フィールドワーク・プログラムとして受け入れました。高校生、大学生とも、数日間マレー人の暮らす漁村でのホームステイ体験、世界遺産に登録されたジョージタウンの街歩きなど、マレーシアの歴史と文化を体感し、学びました。



スリランカ：カイスゲストハウス

ナルール寺院のお祭りでジャフナの町が最も活気づく8月末に、日本の大学生グループを受け入れて、紛争後社会について学ぶ海外フィールドワークに協力しました。3月には、別の大学のグループを受け入れる予定です。



レバノン：シリア難民支援

ベカー県バル・エリヤス地区にある複数の難民キャンプに居住するシリア難民を対象とし、教育支援及び食糧・越冬支援を実施中。教育の機会を得ることが難しい子どもたちへ学習ベースを提供し、継続的な学習をサポートしています。食糧・越冬支援では、就業機会の限られたシリア難民へ、食糧と冬期に必要な不可欠なストーブ用の灯油の配布を行います。



パレスチナ ガザ・西岸での事業 → p.2



スリランカ デニヤヤ デニヤヤ小規模紅茶農家支援 → p.7 (右上記事)



インドネシア スラウェシでの地震被災者支援 → p.1



東ティモール 農村女性の経済活動支援事業 終了 → p.7 (左上記事)



東ティモール：農村の水利改善事業終了

年間を通じて生活用水及び農業用水へのアクセスを可能にし、山間部農村の生活を改善する事業として2015年から開始し、2018年12月をもって終了します。3年間で13集落に上水道供給と植樹、6集落に灌漑用ため池の造成を行い、約3,450人の水へのアクセスと生活環境の改善を行いました。



東京
フェアトレード
→ p.6, 7



広報 → p.8



居場所づくり事業 みんなふえ
→ p.8

愛媛 西日本豪雨被災者支援 → p.3 (下段記事)





よりよい品質のコーヒーを目指して

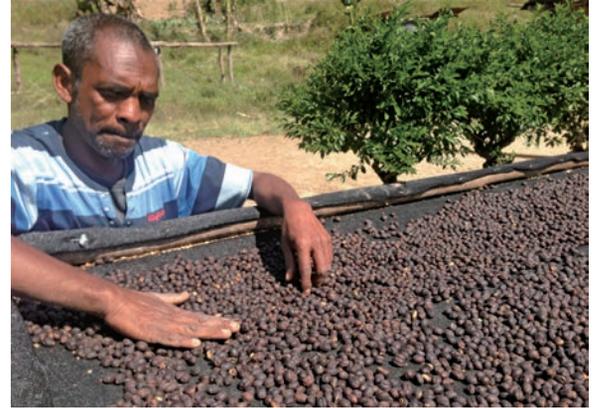
2017年に東ティモールでコーヒー協会（ACT）が発足しました。パルシックとマウベシコーヒー生産者組合（コカマウ）、サココ青年組合（コハル）は、それぞれの立場で理事を務めています。

ACTは東ティモールのコーヒー生産量の安定と増加、品質の向上を目指し、会員への研修や年に1回のコーヒーフェスティバルでの品評会など啓蒙活動をおこなっています。2018年6月にはコロンビアから生産者を招いてコーヒー加工に関する研修を実施し、コカマウからは若手役員のオクタビオ、ロビボグループ代表のジュリオさんが参加しました。コーヒーの赤い実（チェリー）をそのまま乾燥させるナチュラル、チェリーの果肉を取って乾燥させるハニー、チェリーの果肉を取った後、16時間水に漬けて種子の周りにあるぬめりを発酵させきれいに洗う水洗式、発酵の際に水を使わない水洗式と、コーヒー加工といっても世の中にはいろいろな方法があること、どの方法を使うにしても、糖度の最も高い赤く熟した実を使うことでコーヒーの味が決まること、などを学びました。

ジュリオさんはロビボに戻り、7月から始まったコーヒー収穫期にこの4つの工程を試しました。10月に開催されたコーヒーフェスティバルの品評会にはコカマウから16のサンプルを提出し、ジュリオさんの水なし水洗式コーヒーが全国87サンプル中なんと5位に選ばれました。

乾季も雨雲に覆われコーヒー豆の乾燥に苦労するマウベシでは、ナチュラルやハニーよりも水洗式のほうが向いているということがわかりました。ジュリオさんの挑戦といただいた評価は、マウベシのコーヒー生産者にとって励みとなるはずです。

（東ティモール駐在員 伊藤 淳子）



ナチュラル式のコーヒーを干すジュリオさん

ACTの授賞式の様子（左から2人目がジュリオさん）



カフェ・ティモール

粉・豆	各200g	700円(税別)
ドリップタイプ	10g×10個	800円(税別)

オンラインショップにて販売中!

<http://www.parmarche.com>

紅茶のフェアトレードから考えるSDGsの時代に私たちができること

2018年10月1日(月)

登壇者：長坂寿久氏（逗子フェアトレードタウンの会）
高橋知里（パルシック紅茶事業担当）

助成：一般財団法人ゆうちょ財団

フェアトレードは「社会と関わる生き方」

「フェアトレードとSDGs」について学びたい、という事務局の声をきっかけに企画。講師として長坂氏が来て下さることになり、内部勉強会に留めるにはあまりに勿体なく公開集会とし、元駐在員の高橋からの報告も行うことにしました。

当日、長坂氏からは改訂版が発表されたばかりの「新国際フェアトレード憲章」についてご解説を頂きました。フェアトレードは「社会と関わる生き方」という視点に、参加者からは「SDGsに一般市民としても関わると知った」と感想が寄せられました。

元駐在員の高橋からは産地で直面している課題や、組合が目指しているこれからの姿についてご報告しました。

登壇者の高橋(左)、長坂氏(右)



産地から見るコーヒーの今 東ティモール・南米の有機コーヒーの事例

2018年6月29日(金)

登壇者：中村隆市氏（株式会社ウインドファーム代表）
伊藤淳子（パルシック東ティモール事務所代表）

「カッコいい生産者になろう」

東ティモールでコーヒーの活動をはじめから20年目のパルシックと有機コーヒーのフェアトレードで創業30周年を迎えられたウインドファームさん。それぞれの道のりやコーヒー生産者の想いや取組についてのお話を聞きました。

中村氏は、中南米の生産地で起こっている人命や環境を無視した鉱山開発への生産者の抗議運動、それをフェアトレードで支える会社の取組についてお話を聞きました。

伊藤からは東ティモールの生産者が直面する課題（収量の安定化、若者の育成）への取組とともに、「カッコいいコーヒー生産者になろう！」と生産者自身がコーヒーづくりを誇りにできるように、との想いを話しました。



会場の風景





女性グループ自立化にむけて

2013年10月に開始した農村女性による生計向上支援事業は、今年9月末で事業を終了しました。その過程で、女性たちが作る商品の統一ブランド「アロマ・ティモール」を立ち上げ、6県23グループでそれぞれに活動していた女性たちをネットワーク化しました。各県で中心的な役割を担っていくグループを選出し、これらグループと商品の検品作業や共同出荷の仕組みを模索し、商品売上からネットワークを維持するための経費を捻出するモデルを立ち上げました。事業が終了した後は、「アロマ・ティモール」ネットワークの各県のグループがデリのマーケティング担当者と協力し、活動を継続していきます。

東ティモールの国内市場は規模が限られていますが、多様な商品を取りそろえ、幅広い層へアプローチしながら「アロマ・ティモール」の認知度を高めてきました。今後は輸出市場にも積極的に販路を広げます。東ティモールの地方の女性たちが美味しいモノを

つくって収入を得、社会や仲間とつながることの喜びや楽しみを共有していくことに、これからも寄り添っていききたいと思います。

(東ティモール駐在員 林知美)



販促中のマーケティング担当のマルタさん



インターン報告

紅茶の生産者との奮闘の毎日

大好きな紅茶がどのように作られているのかイチから見たい!と思い、2018年6月からインターンとしてデニヤヤで活動しています。

パルシクが支援している有機紅茶農家グループ「エクサ」の茶畑の一番の特徴は、茶の木と一緒にスパイスや果物の木を植える混植栽培をしていることです。その恩恵もあり、特に雨季の6月～8月はランブータンを筆頭に沢山の果物が旬を迎え、まさにフルーツ天国です。

エクサの目下の目標は、果物も含む紅茶以外の有機農産物の販路を確保することです。そこで最近では、トラックを使って移動販売にチャレンジしましたが「燃料費が高い」、「農産物の回収が大変」などの理由から継続的な販売を断念。「荷台付の小型3輪自動車を使用する」など改良案をみんなで協議し、より良い販売方法を模索しています。

(インターン 下里真以)



ホームステイ先の家族と下里(右)

パルシクのフェアトレード商品



アロマ・ティモール

ツボクサ&ミント	各 30g
月桃	
レモングラス	
アボカドリーフ&ライムリーフ	
ハイビスカス	20g
各 700円(税別)	



アールグレイ紅茶・ルフナ紅茶

ティーバッグ	2g×25p	各 700円(税別)
リーフ	100g	



北海道札幌市にある「環境友好雑貨店これからや」さん。お店の中には、シリアの石鹸、世界中の雑貨、国産の調味料やお菓子など色とりどりのストーリーが詰まった商品が並びます。

「マウベシ珈琲」もその1つ。店主の東さんが理事を務める「NPO法人ほっかいどうピーストレード (以下HPT)」さんがマウベシコーヒー生産者組合(コカマウ)の生豆を仕入れて焙煎。HPTさんは「コメった時はお互いさまキャンペーン」と称し、北海道の農家さんたちが作ったお米を仕入れて販売、その売上の一部を毎年寄付として、コカマウ組合の皆さんに届けてくれています。

今年の9月に北海道で発生した大地震では、これからやさんは何とか無事だったものの、被災されたご近所、被害の大きかった地域の方々へ「マウベシ珈琲」を提供されました。これからやさんを通して繋がる輪に、パルシクはいつも背中を押される気持ちになります。素敵なお店へぜひお運びください。



店構え(上)と店主の東由佳子さん(右)



環境友好雑貨店 これからや

〒003-0803
北海道札幌市白石区菊水三条菊水1丁目6-12
電話：011-812-4915
営業時間：10:00～18:00/日・祝日お休み

葛飾のみんなの居場所&子ども食堂 **みんかふえ**

今年6月20日にオープンした東京都葛飾区のみんかふえは、月～金曜日にコミュニティカフェを開き、パルシックのフェアトレードコーヒー、紅茶、ハーブティーを1杯200円で提供しています。水・金曜日は夕方から子ども食堂を運営しています。

これまでお越しくくださった方々から、みんかふえの内装のこと、接客の態度、提供メニューやポスターの貼り方のことなど、アドバイスをいただいは改善する毎日でした。ボランティアには、近くに住むひとり暮らしの方や、遠方にお住まいでも子ども食堂にご興味をお持ちの方などがご参加くださっています。

肝心なお客様はまだまだ少ないのですが、みなさんに支えられながら多世代の方々にお越しいただき、地域交流の場として成長していけるよう工夫を重ねていきます。 (大坂)

みんかふえ

東京都葛飾区白鳥4-22-13

三久ハイツ白鳥1F

Web <https://mincafe.parcic.org>

●営業時間

カフェ 平日13:00-19:00 (但し水・金は17:00まで)

子ども食堂 毎週水・金 17:00-19:00



ボランティアの方がご寄付くださったハロウィン用かぼちゃ。みんかふえに来てくれる小学生の女の子と学生ボランティアさんが共同で目と口をつけてくれました!

ボランティア募集!

コミュニティカフェや子ども食堂をお手伝いくださるボランティアさんを随時募集しています。

ご寄付にご協力ください

みんかふえを継続して運営していくために、ご寄付にご協力ください。

イベント報告 (2018年6月～11月)

主催イベント

6月29日	産地から見るコーヒーの今
7月29日	世界と日本のフェアトレード
8月16日	夏休みセミナー 貿易ゲーム
9月14日	占領下におけるパレスチナ 未来へつなく農業
10月1日	紅茶のフェアトレードから考える
11月11日	ガザに生きる
11月25日	アジアのコーヒー入門 (共催)

スピーカー

6月19日	なごや環境大学 共催講座 「フェアトレードの女性たち」
6月24日	FITSN 関東主催 フェアトレード紅茶セミナー
6月24日	法政大学大学院主催 「CSRとマーケティング」
7月1日	JICA 輸出振興研修 「東ティモールでの商品開発とマーケティング」
7月5日	早稲田大学 フェアトレードサークル主催 「フェアトレード紅茶をめぐる話」

出店

9月29日 30日	グローバルフェスタ JAPAN
10月20日 21日	聖心女子大学 聖心祭
11月4日	横浜オーガニックマーケット



グローバルフェスタで大学生がコーヒーの淹れ方教室を開催

編集後記

今回も民際協力ニュースをお読みくださり、ありがとうございます。
パルシックは2008年に設立され、今年で10年が経ちました。事業地は東ティモール、スリランカから始まり、今では西アジアや、災害の多い日本に広がりました。民際協力ニュースもこの数年間、8ページという限られたスペースの中で、すべての事業進捗を紹介したいと思いつつも、増える事業とフェアトレード商品で、スペースの取り合いが起っていました。
そこで今回の号より、思い切って、パルシックが重点を置く事業を選定してお届けすることにしました。プチリニューアルされた民際協力ニュース、お楽しみいただけましたら幸いです。全事業の詳細な進捗は、Webサイトに公開しておりますので、ぜひそちらもチェックしてみてください!

(東京事務所 民際協力ニュース編集委員 中村、西森)

皆さまのご支援によって支えられています

パルシック会員募集

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

年会費

会 員：10,000円

賛助会員：20,000円

入会ご希望の方は、東京事務所までお問い合わせください。

ご寄付のお願い

あなたの寄付で、パルシックの活動を支えてください。事業地の指定も可能です。みなさまの温かいご寄付をお待ちしています。

パルシックは認定NPO法人です。パルシックへのご寄付、募金は、確定申告によって所得税、法人税、相続税などの寄付金控除を受けることが出来ます。

- クレジットカードでの寄付 (Webサイトより)
<http://www.parcic.org/donation/donate/>

- 郵便局からの寄付 郵便振替口座：00140-8-536957
口座名：パルシック

- 銀行からの寄付 三井住友銀行 神田支店 (普) 2384136
口座名義：特定非営利活動法人パルシック



クレジットカード
寄付 QRコード

※銀行からお振り込みの際は、
ご住所とお名前をご一報ください。